

いさおだより

3 月号

平成 26 年 2 月 28 日

和歌山市立有功小学校



自分のベストをつくすこと



冬期ソチオリンピックが閉幕しました。日本人選手も大変よくがんばり、8つものメダルを獲得しました。メダルが取れなくても、多くの選手が私たちに感動を与えてくれました。特に、フィギアスケートの浅田選手の演技には、私も思わず涙してしまいました。ショートプログラムで大きな失敗をして、浅田選手自身が呆然としてしまうような結果になってしまいました。次のフリーの演技では持てる力を全て出し切った演技を見せてくれました。今までの思いを全て出し切ったようなすばらしい演技でした。

オリンピックに出場するのは、大変な努力を重ね、予選を勝ち抜いてきた人たちばかりです。しかし、誰もがメダルを取ることができるわけではありません。オリンピックでは、全ての選手が自分の持てる力を出し切ろうとしている姿を見せてくれます。それが私たちの心を動かします。本校の子ども達も、一人一人が自分の持てる力を発揮できるようにと願っています。私は有功の子どもはやってくれると信じています。

振り返って、子どもの1年間の成長を見てみると、ずいぶんできることが多くなったなあと感じます。例えば、運動会ではどの子もすごい頑張りを見せてくれました。特に、卒業生である6年生が運動会で見せてくれた活躍は、今も忘れることができません。

さて、平成25年度も最後の月となりました。6年生にとっては小学校生活最後の月です。小学校生活でたくさんの思い出を積み上げてくれたことと思います。3月19日に54名の6年生が卒業していきます。また、3月24日には1年生から5年生までが現学年を修了します。6年生は、最高学年として学校生活でのリーダーとなり活躍してくれました。また、今年入学した1年生も、ずいぶんたくましくなったように思います。2年生から5年生のみなさんも、それぞれ学年にふさわしい成長ぶりであったと思っています。卒業や進級の前に、自分の「できたこと」「できるようになったこと」を振り返り、努力や成長を確認したいものです。

最後になりましたが、今年度の教育活動にあたり、保護者の皆様、地域の皆様に、ご支援・ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

(学校長 小林 達史)

